



2013年10月17日

各位

会社名 株式会社 資生堂
 代表者名 代表取締役会長 前田 新造
 兼執行役員社長
 (コード番号 4911 東証第1部)
 問合せ先 IR部長 高倉 宏文
 (TEL. 03-3572-5111)

第2四半期(累計)連結業績予想の修正および特別損失の発生に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2013年(平成25年)7月31日に公表した平成26年3月期第2四半期(累計)連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。また、平成26年3月期第2四半期において特別損失を計上する見込みですので、その概要についても併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

平成26年3月期第2四半期連結業績予想数値の修正(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	360,000	15,000	15,000	7,000	17.58
今回発表予想(B)	360,000	20,000	21,000	5,500	13.81
増減額(B-A)	0	5,000	6,000	△1,500	
増減率(%)	0	33.3	40.0	△21.4	
(ご参考)前年同期実績 (平成25年3月期第2四半期)	333,631	8,342	8,350	5,020	12.62

2. 修正の理由

当第2四半期(累計)連結業績は、売上高については、概ね前回発表通りとなる見込みです。営業利益および経常利益については、後述する店頭在庫回収に伴い営業費用を引当計上するものの、収益性の向上をめざし販売管理費の効率化を推し進めたこと、および一部費用が下期に繰り下がることなどから、前回発表予想を上回る見込みです。四半期純利益については、同じく後述する店頭在庫回収に伴い特別損失を引当計上することなどから、前回発表予想を下回る見込みです。

3. 特別損失等の内容および発生経緯

当社は、短期間で成長軌道を取り戻すために、徹底した「選択と集中」を行い、「強い領域をより強く」「大きな領域をより大きく」「収益性の高い領域でより利益を生み出す」という考えのもと、「日本」「中国」「米国ベアエッセンシャル社」の3つの領域を集中強化しています。また同時に、2014年度から始まる、成長を実現する次期3カ年に臨むべく、現在「成長の行く手を阻む経営課題」の一掃に取り組んでいます。

その中で、国内における課題の一つである店頭在庫の改善を進めており、9月より商品の出荷を抑制するなど、既に実行段階に入っておりますが、それに加えて、下期に店頭在庫の回収を実施し、在庫水準の適正化と売れ筋商品の品揃えの充実を進めることとしました。具体的には、店頭在庫の偏りの解消を意図した売上下位商品の回収分として約40億円の営業費用を、生産終了品の回収分として約65億円の特別損失を、それぞれ当第2四半期に引当計上いたします。今後は、店頭在庫を溜めない仕組みを構築していくことで、本質的な課題解決を図ってまいります。

4. 通期業績予想

現時点において通期業績予想の変更はありませんが、今後の市況や業績動向を踏まえ、修正が必要と判断した場合には速やかに開示します。

5. 配当予想

平成 26 年 3 月期の間配当予想の変更はありません。当社の 1 株当たり年間配当金は、中間配当金 10 円、期末配当金 10 円の合計 20 円となる予定です。

(注)上記の業績予想は、当社が現在入手している情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上